

中海エコ活動レポート

アテネオリンピック 金メダリスト 柴田亜衣さん 中海へ!



スポーツと環境のコラボレーションをテーマに、日本水泳連盟の認定大会「中海オープンウォータースイム (OWS) 2014」が6月29日(日)に米子市の米子湾と湊山公園で開催され、アテネオリンピック水泳女子800m自由形金メダリストの柴田亜衣さんがゲストとして参加されました。

柴田さんは開会式で「中海は、2020年東京オリンピックのOWSの会場となるお台場とよく似ています。今後も中海OWSが開催されるたびに日本のトップ選手が、このレースに参加されると思います。ぜひ、これからもずっとこの大会を続けて欲しいです。」と挨拶され、レースのスターターを務められるとともに、ヨットから観戦され、選手全員に「がんばって下さい」とかいっぱい声援を送られていました。

この中海OWSからも柴田さんのようなオリンピック選手が今後出てくることが期待されます。



- アテネオリンピック金メダリスト 柴田亜衣さん 中海へ!
- 米子市民レガッタ
- なかうみマラソン全国大会

- 中海の湖底湧水
- アサヒビール(株)から「中海の自然環境保全活動」へ寄付
- 中海海開き 「きれいになった中海で泳がいや」

中海のスポーツへの利活用のご紹介

米子市民レガッタ

7月13日(日)に、米子市錦海ポートコース(湊山公園沖米子港)を会場として、米子市内外から76クルー、約600人が参加し、今年も米子市民レガッタが開催されました。昭和44年にスタートしたこの大会も今年で46回目を迎え、ボート初心者から愛好家まで幅広く参加できる大会として、今や米子の夏の風物詩



※出典：とっとりWebマップ

となっています。多くの参加者に、中海の美しい景観に恵まれたコースで水に触れ、ボートの楽しさを味わってもらうことで、中海の環境に関心を深めてもらえたのではないのでしょうか。



■ 米子市教育委員会体育課
TEL (0859)-23-5426
<http://www.city.yonago.lg.jp/1849.htm>

なかうみマラソン全国大会

なかうみマラソン全国大会は、安来市で開催する山陰最大規模のマラソン大会です。中海を見渡せる絶好のロケーションを活用し、地域の健康づくりやスポーツ振興、中海圏域の情報発信を目的として毎年11月の第1日曜日に開催しています。第10回となる今回も北は北海道から南は沖縄県まで、4910人の参加者が集まり、中海の景色を楽しみながら、沿道の声援や地元の和太鼓、吹奏楽の演奏に後押しされて力走しました。また、ゲストとして1988年

ソウルオリンピック1万m代表の松野明美さんから3人の方が参加されました。さらに、会場では、中海圏域の魅力やPRするグルメ村や地元特産品が当たる抽選会など、盛りだくさんのサブイベントもあり、大会は盛り上がり、大盛況の内に終了しました。



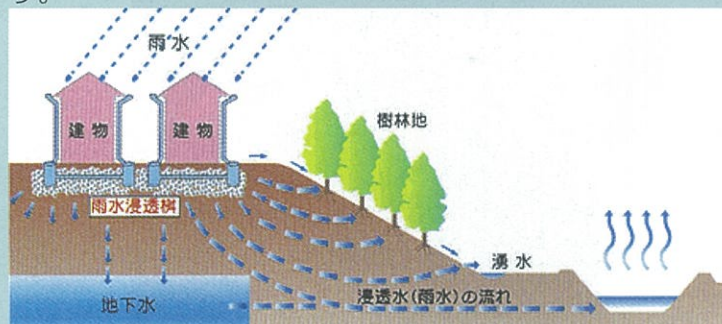
安来市イメージキャラクター「あらエッサくん」



■ 安来市市民生活部地域振興課(なかうみマラソン全国大会事務局)
TEL (0854)-23-3500
<http://www.city.yasugi.shimane.jp/busyo/shiminseikatsu/chikishinkou/oshirase/naiumi/>

中海の湖底湧水

河川から中海に流入する有機物粒子は湖底に堆積し、分解されるときに大量の酸素を消費して貧酸素水塊発生の原因の一つになっています。また、有機物の粒子（浮泥）が湖底の砂泥地を薄く覆い、アサリやシジミ幼生の着底を阻害しています。雨水が有機物と共に地下に浸透すれば、有機物は微生物に分解され、最終的に海岸海底からの無機態の栄養塩として湧出し、植物プランクトンと海藻による基礎生産を支え、水産資源を育みます。さらに、雨水中の酸素によって有機物が陸域で分解されるため中海の湖底で有機物の分解に消費される酸素の量が少なくなります。そのため、雨水の浸透環境を修復させることができれば、集水域の有機物粒子の流入量を減らし、雨水中の豊富な酸素と無機体の栄養塩を湖底から供給することができるはずです。湖沼の湧水量を増やすために、雨水浸透柵設置を推進している自治体があります。コンクリート側溝を石積みの溝や土水路に修復することでも、湧水量を増やすことができます。



雨水浸透柵による地下水と湧水の涵養

※手賀沼水環境保全協議会のホームページより引用
(http://www.tesuikyo.jp/direct/gyouse/basin_work)

中海万原ポンプ場跡地付近にある道路施設については、中海干拓事務所がNPO法人未来守りネットワークとも協議をしながら、駐車場に降った雨が直接中海に流入するのではなく、湖岸の土壤中に浸透するよう工事しました。このような工事によっても、湖底からの湧水を保全することができます。また、ヨシの生育する遠浅の地形が残されたため、湧水の滞留しやすい環境が保全されました。



干拓事業に伴い万原ポンプ場周辺に1980年代に形成された浅場



地下に浸透する万原駐車場側溝の排水

万原駐車場周辺では砂が吹き上がるほどの湧水帯が広がり、その周辺にアサリ幼稚貝が生息しています。



湖底湧水による砂の吹き上げ



湧水帯に発生したアサリ幼稚貝

中海湖岸では量の多少はありますが湖底湧水が面的に湧出し、湖底に汽水～海水の湧水が滞留しています。雨水の浸透環境を修復し、遠浅の入り江状地形を再生すれば、湖岸沿いに自然再生を行うことが可能です。



大崎の湖底に滞留する清浄な湧水

■ (株) 海藻研究所 新井章吾
〒811-0114 福岡県粕屋郡新宮町湊坂 3-9-4
TEL (092)-963-4417
E-mail: shogo.arai@nifty.com

アサヒビール(株)から「中海の自然環境保全活動」へ寄付

アサヒビール(株)は、47の各都道府県において、地域ごとの自然や環境、重要文化財などの保護・保全活動に対して、ビールの売上の一部を寄付する【アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!」プロジェクト】を2009年より全国で展開されています。

鳥取県では、このプロジェクトの対象として、中海の環境改善に取り組んでいるNPO法人中海再生プロジェクト(内藤理事長)に97万5168円が寄付されることとなり、7月8日(火)に、鳥取県西部総合事務所で贈呈式が行われました。

贈呈式には、アサヒビール(株)山陰支社の末時支社長、内藤理事長、平井知事らが出席し、贈呈された寄付金は中海の清掃などの活動に利用される予定です。

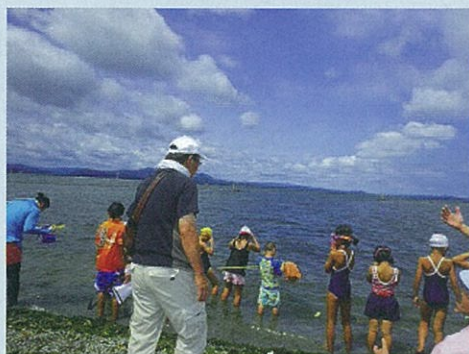


- | | |
|--|---|
| ■ NPO法人中海再生プロジェクト
(事務局 中海テレビ放送(株))
〒683-0852 米子市河崎610
TEL (0859)-29-2211
http://www.chukai.ne.jp/ | ■ アサヒビール(株)山陰支社
〒690-0001 松江市東朝日町72-8
TEL (0852)-23-6791
http://www.asahibeer.co.jp/ |
|--|---|

中海海開き「きれいになった中海で泳がいや」

7月19日(土)に2年ぶりに開催した第4回中海海開きでは、岸辺から湖底に魚がいるのがわかる程透明度が高く、子供たちは大はしゃぎで泳ぎました。

国土交通省の説明で中海の現状について教わった後、子供たちも生き物調査に挑戦しました。最初は戸惑いながらも、慣れてくると大きなタモで湖底近くをすくったり、海藻ごと採取して選別したりと夢中で探しました。小さなエビや小魚・貝が見つかる、興味深そうに覗き込んで手で触って観察しました。夏休み初日に水遊びを通じて、中海には100種類位の多様な生物が生息していることや、親子で出来る水質保全の方法を学び、きれいになった中海を実感していました。



最初は様子を見ながら、水に入ります。



大きなタモを持って、夢中で探しました。



小さなエビや魚がいました。

- NPO法人未来守りネットワーク
〒684-0004 境港市大正町38
TEL (0859)47-4330
<http://www.npo-sakimori.net/>

中海の環境活動イベント情報をホームページに掲載しています

中海・宍道湖情報館 イベント情報 ホームページアドレス <http://www.nakaumi-shinjiko.jp/calendar.html>

編集・発行者

鳥取県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
鳥取県米子市靴町一丁目160
電話 (0859)31-9322
E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

鳥取県環境生活部環境政策課
宍道湖・中海対策推進室
鳥取県松江市殿町1番地
電話 (0852)22-6445
E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認ください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。